

令和8年度 第1回富山市環境審議会 会議録

- 1 日時：令和8年7月28日（火）午後2時00分～午後3時25分
- 2 会場：富山市役所東館8階大会議室
- 3 出席者： 内山委員、加賀谷委員、川端委員、国谷委員、九里委員、谷井委員、袋布委員、中川委員、長谷川委員、平林委員、水守委員、道井委員、村上委員

欠席者： 久加委員、高橋委員、徳山委員、中谷委員、山口委員

4 配付資料：

資料1：富山市環境審議会委員名簿

資料2：富山市環境審議会座席表

資料3：家庭ごみの有料化制度について

資料4：第3次富山市一般廃棄物処理基本計画の策定に向けた取組について

5 議題

(1) 家庭ごみの有料化制度について

(委員)

小学生を対象とする「もったいないポスターコンクール」は、新たに実施されるものか。小学生への啓発は大切だと考えているが、先生方の負担についても考慮されているか。また、作品は小学校を通して提出されるのか。

(事務局)

新たに実施する事業ではありますが、先生方への負担も考慮し、夏休みの課題とはせず、自由参加としている。一部の小学校では、課題として取り扱っていただいてる。先生方の負担とならないよう、作品は、各家庭から直接市へご提出いただくこととなっている。

(委員)

子どもたちにごみに対する理解を深めるため、プラスチック資源などがどのような経路をたどり、リサイクルされているかを、広報とやまなどで分かりやすく伝え、子どもたちに知っていただくことで、ポスターコンクールなどの事業に、子どもたちが理解を深め、取組むことができるのではないかと。

また、有料化については、45リットルの袋に入らないものについても、自転車やタンス

などの家具も、縛り付けるか貼り付けることで収集されるのか。

（事務局）

子どもたちにリサイクルの仕組みを伝えていく事は大切であり、3R推進スクールの実施のほか、社会科副読本を作成し、小学4年生の全員を対象に配布している。

また、今年度新規事業として、市内4校程度にはなるが、5年生を対象に、モノづくりや廃棄されるプラスチックの再生利用について学ぶ体験型の「マイプラスチックステーション事業」を実施する。

自転車やベッドマットレスなどの袋に入らないものについては、一番大きい、45リットルの袋を、縛るか貼り付けるかしていただければ、収集します。

一定程度、この方法が定着した後は、粗大ごみについては、シール方式など導入も検討が必要であると考えている。

（委員）

有料化しない紙おむつ、生理用品、パットなどの捨て方はどのように考えているか。

（事務局）

「福祉」などの貼り紙をして、透明または半透明の袋で出していただくことで回収することを考えている。紙おむつは新聞紙に包んでいただくことも考えている。

（委員）

私たち大人に対し、ちゃんとかみを減らそうとする意識付けが必要ではないか。いろいろと工夫が必要であると考えているが、今年10月から行う住民説明会において、その点で考えている取組みはあるか。

（事務局）

大人へのアプローチとして、若者や外国人の方向けに、外国語に対応している「ごみ分別促進アプリ」、SNS動画などのコンテンツを、10月の住民説明会に向けて揃えて行きたいと考えている。

（委員）

リユース活動はとてもいいことだと思うが、民間事業者との協定について、具体的な取組みはどのようなものか。市はどのように関わっていくのか。

（事務局）

現在、本年3月に締結したリユースサービスサイトの「ジモティー」や「おいくら」について、市のホームページで、市民への周知を行っている。また、「ジモティー」については、実店舗での取組について、本市での設置に向けて事業者と検討を進めている。

市としては、周知啓発などの側面から、民間企業の実践を支援していきたいと考えている。

（委員）

着物をリユースできる場所はあるか。紹介することはできるか。

リユースのために、不用品を市民が持ち込める場所を紹介する、富山市版マップを作成すると良いのではないか。

（事務局）

マップの作成や不要品の持ち込みやマッチングに関する情報の提供については、今後検討していきたい。

（委員）

先進国では、不要な着物を、ポーチなどにアップサイクル（価値化）する実践がある。

家から出てくる、さまざまなものを、一つ一つ、いかに大切に、価値化して、世の中に戻していけるかをぜひ検討してもらいたい。

（委員）

ダンボールコンポスト講座は、出前講座方式での実施はしているか。

（事務局）

出前講座では現在実施してはいないが、ご要望があれば検討したいと考えている。

（委員）

ごみ分別促進アプリについて、A I 画像認識の精度はどの程度のものか。

また、分別して出されたごみが「どのように処理されていくか」、市政にプラスとしてお金として戻ってくるか見える化が必要。

環境活動をしようと思う人は、自己効用感が即座に分かれればやる。△ではやらない。○に近いものを情報発信してほしい。

（事務局）

本年10月からのアプリの運用の開始に向けて準備を進めている。A I 画像認識の精度は、まだ提供会社と確認中ではあるが、そのほか、収集カレンダーやチャットボット等の複数の機能を搭載している。機能が高まるよう、企業と調整していきたい。

（委員）

大学の中でのごみの分別ルールを変える予定としている。

大学は留学生をたくさん受け入れることから、マニュアルを多言語で策定することが課題である。もし、このアプリが大学の中でも活用できるのであれば、凄く興味深い。

現状どの程度出来上がっていて、我々も触ることができるか。

（事務局）

市職員で検証し、ある程度の完成度になれば、先生にご案内したい。
出前講座もあるので、ぜひ新生や留学生向けに大学に呼んでいただきたい。

（委員）

ベータ版で、学生の協力もできる。バグの確認ができる。（意見）

（委員）

どの言語に対応しているのか。

（事務局）

最初は英語の1か国から開始する。今後自動翻訳機能の搭載も予定していると企業から聞いているので、様々な言語に対応できるものと考えている。

（2）第3次富山市一般廃棄物処理基本計画の策定に向けた取組について

（委員）

事業系ごみが減っていないとのことだが、具体的な品目は。

（事務局）

市に大規模排出事業者から減量計画書をいただいております、紙類が多いと聞いている。紙リサイクル事業者を講師に招いた、事業者向けの研修会も行っている。

（委員）

令和3年度と令和8年度の比較で、割合で見ると手つかずの食品について割合が若干増えている。実際の絶対量で比較すると、増減はどのようなになっているか。

（事務局）

詳細は分析中。市の年間の総排出量は年々減少している。

内訳としてプラスチック資源や紙類の割合が減少しているため、それらが要因とも考えられる。

（委員）

総量が減っているから、パーセンテージが上がっているのではないか。

おそらく、手つかず食品の量が変わらず一定で、全体量が減っているのでパーセンテージが上がって見えるのかなと思う。

絶対量が増えているというミスリードはしないように。パーセンテージと同時に、絶対量の推移の分析も必要だと思う。

(委員)

食品ごみはほとんどが水分である。一般家庭での手つかずの食品の廃棄を減らすために、もう1歩、2歩の施策の取組が必要である。

— 閉会 —